

令和3年度事業報告

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

【概況】

当法人は、昭和39年1月の創設以来、日本の文学・哲学・教育・美術等の各分野に多大な影響を与え、東洋の精神文化の基幹をなしてきた禅及び禅文化を、総合的に研究し、その成果を普及して、広く世界の人類文化に貢献する事業を展開してきた。

本年度も禅文化の普及に努め、公益目的事業では以下の活動を行ったが、コロナ禍のため制限が続いている。

調査研究活動では、中国禅宗史・禅語録研究班をはじめ各研究班は、学内の施設利用指針により一部の研究班を除き休会となった。

資料収集・資料公開活動では、禅宗寺院が所蔵する文化財を電子データとして記録し保存するデジタルアーカイブス事業について、外部に委託する予定であった公開のためのシステムを中止し、内部で構築することになった。まずは研究所の所蔵品から公開する。また寺院所蔵の宝物調査も継続して進んでいる。令和3年度は大本山南禅寺の調査継続と、大徳寺塔頭の玉林院の調査・撮影などを行った。特別展覧会は、1年遅れで「両足院」展を開催した。

広報・普及活動では、様々なメディアを利用して禅文化の普及に努めた。書籍等の刊行として『中国禅思想史』、『新 坐禅のすすめ』、『2022年禅語こよみ』などを刊行した。

収益事業では、宗教法人管理システム「擔雪Ⅱ」の販売やサポート、臨済宗や他宗派の宗務所管理システムの機能追加への対応や保守サービスなどを行った。

共益事業では、臨黄合議所関連の業務をはじめ各派宗務本所や寺院からの委託出版などを行った。

—目次—

I. 禅文化普及事業（公益目的事業）

〈1〉 調査・研究活動	2
〈2〉 資料収集・資料公開活動	4
〈3〉 広報・普及活動	5

II. 収益・共益等事業

〈1〉 ソフト開発・販売等事業	8
〈2〉 共益事業	8

財務諸表	10～20
------	-------

I. 禪文化普及事業(公益目的事業)

〈1〉調査・研究活動

1. 中国禅宗史・禅語録研究班

※各研究会の概要は7頁に記載。

① 唐代語録(『祖堂集』)研究会〔班長 西口芳男〕

今年度は卷十一睡龍和尚章(全十五則)の第十五則、卷十二の中塔和尚章(全八則)・仙宗和尚章(全十一則)、卷十三招慶和尚章(全四十八則)の十四則の計三十四則を読み進んだ。コロナ禍により研究会は後期よりの開催となった。2021年4/23、5/14、5/28、6/11、6/25、7/9、9/24、10/8、10/22、11/12、11/26、12/10、2022年1/14、1/28、2/25、3/11。

また、『禪文化研究所紀要』第35号(2021年5月発行)に「『祖堂集』卷10譯注(三)鏡清和尚章(二)」を発表した。

講師：衣川賢次(花園大学教授)

参加者：川島常明(大通院住職)・松岡由香子(山水庵庵主)・久保護(禪文化研究所研究員)・鈴木洋保(花園大学非常勤講師)・鈴木史己(南山大学講師)・土屋昌明(専修大学教授)・藤田和敏(相国寺寺史編纂室研究員)・陳菲(花園大学大学院博士課程：中国留学生：法名空慧)・羅旌超(花園大学大学院博士課程：中国留学生：法名道悟)・王珂(花園大学修士課程、留学生)・葛研(花園大学修士課程、中国留学生)・宋力(花園大学修士課程、中国留学生)・定浩(花園大学修士課程、中国留学生)

② 「神會語録」研究会〔班長 西口芳男〕

今年度は休会した。

③ 「景德伝灯録」研究会〔班長 西口芳男〕

今年度も、コロナ禍により開催できなかった。

④ 俗語言研究会〔担当 衣川賢次・西口芳男〕

平成5年～10年にかけて、日中の中国語学研究者に呼びかけて刊行した雑誌『俗語言研究』を中国四川大学が主(経費負担を含む)となって復刊する。禅宗研究の推進を目標とし、禅宗の言語、禅宗の歴史と思想、禅宗文献の研究を主題とする論文、書評等を掲載する。日本側は監修として参画。

『俗語言研究』第七號(復刊第二號)投稿論文

刑東風「錢謙益與憨山德清」(査読：伊吹 敦)・邢東風「資料紹介『佛日圓明大師別岸和尚語録』」(査読：戒法)・衣川賢次「《趙州録》譯注(二)」(査読：(土屋太祐)・衣川賢次「項楚「三半句詩話」日譯」(査読：西口芳男)・衣川賢次「書評 馮國棟『景德傳燈録研究』」(査読：鈴木史己)・Jason Protass 蒲傑聖「南宋〈妙堪和尚偈頌〉校録與研究」(査読：邢東風)・高婉瑜《臺灣禪籍語言研究概況》(査読：鈴木史己)・李艷琴《禪宗文獻字迷詞語考辨》(査読：土屋太祐)・周正《禪籍異形詞性論》(査読：齋藤智寛)

発刊が遅れているが今年中に刊行する。

2. 禅宗経典研究班

禅文献に関わる経典類のうち、これまで未開のものについて独自の研究を進めると共に、臨済宗で常用される経典についても、現代に即した内容や形態は何かを究明し、一般に普及する方策を考える。今年度は活動なし。

3. 哲学研究班〔幹事 森 哲郎〕

令和3年度の報告としては、三つの研究会（大蔵会、西田哲学研究会、西谷研究会）のうち、西田哲学研究会のみは、参加者も比較的多いので、オンラインにて開催した。20数名で、ほぼ3ヶ月ごとに「一般者の自覚的体系」を読解討議した。大蔵会と西谷研究会は、少人数で直に対面する大切さもあり、コロナの収束を期していたが、結果的には休会を余儀なくせざるを得なかった。

4. 日本禅宗史・禅語録研究班

日本の伝統教団を形成した祖師たちの伝記や語録を体系的に整備し、現代的に解釈することを目的とする。班員は所員を中心としたメンバーで構成する。

① 江湖開山等語録研究〔担当 能仁晃道・藤田琢司〕

臨済宗各派寺院の協力により、開山・中興開山等が残した語録類を整理し、訓注を行う。本山以外の寺院に残る語録類の訓注は、殆どなされておらず、日本禅宗史上重要なものが多い。

今年度は、松島瑞巖寺の洞水東初禅師の語録の訓注を終了し、令和3年10月に瑞巖寺より書画類の図録と併せて発行した。永源寺の『一絲和尚語録』の訓注も終了し、令和4年10月に発行する。また、仙台伊達家の歴史書である『伊達出自世次考』『伊達正統世次考』の訓注も進めている。

② 『延宝伝灯録』研究〔担当 藤田琢司〕

日本の禅僧・居士ら約千人の伝記を、卍元師蛮が撰述した『延宝伝灯録』の訓注作業を行う。本書は江戸時代までの日本禅僧の伝記の集大成として位置づけることができるが、歴史学の成果に加えて難解な禅語の知識が不可欠であったため、従来訓読等が刊行されたことはなかった。今年度は内容見直しのため休止とした。

5. マルチメディア研究班

印刷物をはじめ、音声、映像、ホームページなど、多様なメディアを通して現代人に禅をわかりやすく伝える方策を研究する。令和3年度には、禅のこころを生かしたミニ・カレンダーである「2022年禅語こよみ」（熊本見性寺所蔵品より）を刊行したほか、「新坐禅のすすめ」「禅心の光芒」「中国禅思想史」などを刊行した。

〈2〉資料収集・資料公開活動

1. デジタルアーカイブス

禅の文化として大切に遺されてきた書画を中心としたアーカイブを、劣化しないデジタルデータとして保存していくことを目的とする事業。当初、「国内外にオンライン博物館として、禅の文化財を紹介していく事業」を掲げていたが、それらのアーカイブを構築することで、多様な学術研究を支えるための基盤作りを行ない、その活用を推進するための事業として展開することにした。

① デジタルアーカイブス（禅文化財目録整備事業）

臨済宗・黄檗宗寺院のうち、デジタル化について理解の得られた寺院に出向くなどをして調査・撮影を行ない、デジタルコンテンツを作成する。

これらのデータの管理・公開については、日本写真印刷コミュニケーションズの美術館・博物館向け収蔵作品管理システムを導入する予定であったが、いくつかの重要な要件を満たすことが困難なため中止とした。それにともない、管理・公開のためのシステムを所内で構築、当法人が所蔵する学術資源のデジタルアーカイブ化を進めた。まずは令和4年5月末に所蔵品約30点を国内外に向けて広く公開する。

またアーカイブス構築のための調査についても、花園大学歴史博物館と連携して調査を継続し、調査後には専門分野の学芸員に依頼してそれらデータの目録情報を入力している。令和3年度は、大本山南禅寺、大徳寺塔頭の玉林院の調査・撮影を継続して行ったほか、飯山正受庵の書籍類の整理を行った。

また、両足院所蔵書籍のアーカイブスについても、年度末をもってほぼ完了した。

② 一般寺院什物データベース

①に連携するために優品を有する寺院所蔵の宝物のデジタルアーカイブ整備事業として、簡易なデータベースを内部で開発構築し販売しているが、上記の文化財目録整備事業における調査を行った当該寺院に、このデータベースシステムの利用を促し、所蔵品のデジタル画像と目録のデータベース化を推奨し、データ入力を完了した状態で納品している。令和3年度は、八幡圓福寺のデータ、大本山方広寺のデータを継続整理中。

2. 資料の収集・整理・公開

① 資料室所蔵品の整理・公開（利用）

当法人がこれまで収集してきた文献資料と新たな購入や寄贈を受けた図書の整理を行った。蔵書には、他の図書館や資料館にはない貴重なものが含まれており、これらの閲覧も、従来通り内外の研究者や禅に関心のある一般人に無料で開放した。オンラインでの所蔵図書の検索については、蔵書整理を行ってから検討に入る。

② WEB版所蔵墨跡展

当法人が所蔵する書画を、ホームページ上でバーチャル墨蹟展として公開中。

「特別展覧会」（花園大学歴史博物館と共催）

デジタルアーカイブス事業の成果として、禅宗寺院及び当法人が所蔵する書画を一般

公開し、美術に関する講演を行う墨蹟展を花園大学歴史博物館と共同で開催する。

コロナ禍のため令和2年度中に開催できなかった「両足院 いま開かれる秘蔵資料」展を、令和3年11月29日から令和4年2月3日まで開催した。

④ 黒豆データベース公開事業

当法人がこれまで電子テキスト化してきた禅宗文献のうち、訓注本として発刊してきたものの原文データベースを、簡易検索システムと共にホームページ上で一般に無償公開中で、随時、データファイルを追加する。今年度の追加登録はなし。

⑤ 問い合わせに関する回答

資料の出典や解説等について、寺院・団体・個人を問わず様々な問い合わせが数多く寄せられる。それらの回答に無料で応じた。文書で行った回答には以下のような質問が寄せられた。

『夜船閑話』に見える「一覚」の読みについて（点訳者）／董其昌、李卓吾と禅の関係についての史料の読みについて知りたい（研究者）／沢庵禅師と雲居国師の和歌について／鉄山宗鈍老師の「左花右竹」にある用語（以上、個人）／白隠の軟酥の法について知りたい／雪竇禅師『祖英集』について（以上、寺院）ほか、墨蹟や落款の読みなどを含め20件。その他電話による質問もあり。

〈3〉広報・普及活動

1. 季刊『禅文化』の刊行

季刊『禅文化』は、禅の思想と生活及び文化・美術などに興味を持つ読者のための教養誌として刊行を続けている。今年度は以下の号数を発行した。

- 260号 特集「在家禅 居士と大姉」
- 261号 特集「禅僧が選ぶ一冊 ー私を変えた本ー」
- 262号 特集「黄檗の禅 前編」
- 263号 特集「黄檗の禅 後編」

主な配布先は寺院、一般、花園大学後援会など。購読会員数2,638名。

なお、243号より花園会館と南禅会館の客室に常備いただいている。

2. 研究成果の刊行

○禅宗経典研究班の成果

- ①【重版】 『諸回向清規式抄』3刷 100部
- ②【重版】 『臨済宗檀信徒経典』14刷 3,000部
- ③【重版】 『新版 引導法語大全』4刷 100部

○マルチメディア研究班の成果

- ①2022年禅語こよみ 熊本見性寺所蔵品より (令和3年9月刊行)
初版42,000部 禅のこころを生かしたミニ・カレンダー。
- ②『中国禅思想史』伊吹敦 (令和3年6月刊行)

初版 400 部 「社会における禅宗の位置」を視点にした中国禅思想の通史。

③『新 坐禅のすすめ』 禅文化研究所編 (令和3年10月刊行)

初版 3,000 部 坐禅を更に深めたい人への指南書。

④『禅心の光芒』 西村恵信 (令和3年10月刊行)

初版 1,500 部 祖師たちの自由闊達で深い禅心が迸る一書。

⑤【重版】 『雲水日記』3刷 1,500 部

3. 公開講義

「禅思想の諸問題」〔講師 西村恵信（花園大学名誉教授）〕

前所長による講義で、『臨濟録』（岩波文庫版）をテキストに一般社会人を対象に禅の基本思想を平易に教える。毎週火曜日開催を原則とし、今年度もコロナ禍のため会場を京都駅前のキャンパスプラザ京都に移して開催した。

4. ホームページの運営とコンテンツの充実

① 禅文化研究所ホームページの運営とコンテンツの充実

ホームページのコンテンツ更新および連動している臨黄ネット御用達市場にある「禅文化研究所オンラインショップ」の商品登録などを行った。

② 臨黄寺院ネットワークの運用協力

臨濟禅を世界に発信する公式サイトである臨黄ネットの情報更新及びコンテンツ制作を行った。毎月更新している禅語の解説には、禅文化研究所発行の書籍から選出している。

5. 公開講演会等

① 公開講演会

「両足院—いま開かれる秘蔵資料—」展にあわせて以下の公開講演会を開催した。

令和3年12月16日 「両足院の文物と対馬以酛庵輪番がもたらしたもの」

片山 真理子氏（花園大学歴史博物館研究員）

令和4年1月21日 「五山文学の宝蔵を開く—両足院調査を終えて—」

赤尾 栄慶氏（京都国立博物館名誉館員）

② 教化・運営の実践講座（サンガセミナー）

寺院の公益性が求められるなか、僧侶も一般の方も一緒になって学ぶ場として開講。令和3年度は、コロナ禍の蔓延防止対策を考え、全3回集中講座として以下を開催した。

「雪舟研究最前線」講座 福島恒徳氏（花園大学文学部教授）

「怪異学の冒険」講座 西山 克氏（京都教育大学名誉教授）

6. 広報・普及

研究成果としての刊行物を、ダイレクトメールをはじめ、ブログ禅、メールマガジンの発行、あるいはTwitterやFacebookなどを利用して広範囲に普及を行った。また公式のInstagramも設定し、禅語と写真をあわせて配信を行っている。今年度も、コロナ禍により寺院売店や美術館のショップなどの売上は低調であった。

現在、売店等で頒布を依頼している本山・寺院は以下の通り（業者委託分含む）。
妙心寺（花園会館）／建長寺／方広寺／永源寺／天龍寺／相国寺（承天閣美術館）／建仁寺／佛通寺／龍安寺（妙心）／鹿苑寺（相国）／慈照寺（相国）／神勝寺（広島・建仁）／酬恩庵（京田辺市・大徳）／東慶寺（鎌倉・円覚）／東京国立博物館／MIHO美術館（滋賀）／湯木美術館（大阪）

※中国禅宗史・禅語録研究班の概要

当法人は、設立以来語録研究班を組織し、禅文献のうち最重要とされる中国唐宋代の禅語録を継続して会読している。これらは禅の語録を、唐代・宋代の中国語の口語研究を踏まえ、語彙や文体の変遷と思想史の脈絡にしたがって読解してゆくものである。その成果は、唐宋の思想史解明に新たな観点を提供するものとなり、また、唐宋の口語研究に寄与するものとなる。

参加メンバーは仏教学、哲学、文学、中国語学などの研究者や学生、一般からの参加者などで構成され、学際的な雰囲気の中で研究が行われている。

①唐代語録（『祖堂集』）研究会

『祖堂集』は『景德伝灯録』の編集に先立つこと52年、完存する禅宗灯史の書としては現存最古のものであり、現代の禅に直結する唐五代の禅の資料の古層をなすものとして貴重である。北宋初期の当時の最高の知識人の刊削裁定を経た『伝灯録』に比べて、野趣に富んだ生の資料を提供してくれるものであり、口語研究の資料としても、近年、とみに注目を集めている。既に50年前、この研究班では、入矢義高・柳田聖山の指導のもとに読まれ、当時の原稿によって『訓注祖堂集』（国際禅学研究所報告第8冊、2003年）として当時の成果が発表されている。今回は『祖堂集』を成立させた福州の雪峰教団の禅師をメインにして深く読み進め、『祖堂集』成立の背景を探ることを目的とする。

②「神会語録」研究会

敦煌写本禅宗文献の中で最も重要なものの一つに神会関係のものがある。神会の語録の校訂本には、つとに、胡適氏、鈴木大拙氏のものがあるが、敦煌博物館本やいくつかの断片写本が出揃うと、従来の校定には限界のあることがわかり、新たな定本、正確な訳文、詳細な注釈の作成が待たれていた。本会ではこの点を重視した読解を進めてゆく。

③「景德伝灯録」研究会

禅語録中、最も基本的かつ重要な文献である『伝灯録』全30巻を、近年の日中両国の中国口語史研究の成果を踏まえて、千八百の古則公案といわれる問答の一つ一つの意味を解明することに重点を置き読解を進めている。

Ⅱ．収益・共益等事業

〈1〉ソフト開発・販売等事業

1. 宗教法人管理システム「擔雪Ⅱ」の販売

「財務管理」「法務管理」「会費管理」「寄付金管理」の各システムを発売中。宗門を中心に仏教諸宗への販売促進。DM（ダイレクトメール）やネット上のアドワーズ広告等を行った。最新の Windows10 にも既に対応済み。「擔雪Ⅲ」へのバージョンアップについては、外注費の確保やサポート体制の目処がつかず開発を凍結した。

2. オーダー型管理システムの構築

以下の構築済みシステムの機能追加や運用をサポートした。

東福寺派管理システム

南禅寺派管理システム

建長寺派管理システム

曹洞宗宗務所管理システム

天龍寺派管理システム

妙心寺派布教師会管理システム

佛通寺派管理システム

真言宗管理システム

青蓮院管理システム

永保寺墓地管理システム

藏春寺霊園管理システム

妙心寺派 白隠さんの会

現在、臨黄 15 派のうち 6 本山は研究所のシステム（「擔雪Ⅱ」含む）を利用中。

3. 宝物管理システム「禅の至宝」Windows 版の開発と販売

一般寺院がデジタルアーカイブデータを管理するための宝物管理システム「禅の至宝」Windows 版の開発を行い発売中。

4. 出版物頒布

他社から委託を受けた禅関係の出版物をホームページやDMなどで案内し頒布した。

主な取扱い品：「日本の心 日暦」・「茶禅一如 日暦」・「干支色紙」（以上千真工芸）、「見てわかる仏事」（臨済宗青年僧の会）、「いろはにほへと」（大本山円覚寺）、「送喪儀」（連合各派布教師会）、「坐禅和讃講話（英語版）」（南太平洋友好協会）等。

〈2〉共益事業

1. 臨黄合議所事務局

○年間会議

令和 3 年 4 月 21 日（水）理事会（東福寺派宗務本院）

令和3年9月27日（月）理事会（東福寺派宗務本院）

令和4年1月19日（水）理事会（京都市内ホテル）

教学部長会は2回開催

臨済宗黄檗宗宗勢調査委員会は6回開催

○「臨黄会報」の発行（55号・56号）

○臨黄互助会の促進

○会議等の事務処理

2. 寺院委託出版等

① 『坐禅和讃講話（英語版）』 南太平洋友好協会発行／令和3年4月

② 『圓應録』 平林寺発行／令和3年4月

③ 『洞水東初和尚集』 瑞巖寺発行／令和3年10月

その他、以下の編集業務を行った。

『正受老人遠諱記念図録』 妙心寺聖澤派／令和4年12月刊行予定

『恵林寺所蔵頂相集』 恵林寺／令和4年秋刊行予定

『伊達家の歴史』 満勝寺（仙台）／令和5年刊行予定

『岫雲抄』 岫雲会有志編／令和4年11月刊行予定

3. 引導法語データベースの公開

妙心寺派教学部と共同で制作した臨黄ネット寺院会員サイト内にある「引導法語データベース（332法語）」を公開している。今年度は更新していない。